

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
ES12B005		学校間連携・地域連携の実践研究(Practical Research on Collaboration of Schools and Community)					学校経営コース科目														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 山崎清男、大島崇、雪丸武彦、小池一彦 E-mail 内線															
授業の概要	<p>本授業科目では、学校間連携・校種間連携等や地域資源を活用した開かれた学校づくりの原理を理論的に学ぶとともに、学校現場の事例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討する能力を養う。</p> <p>また、学校参加と学校運営協議会制度(コミュニティースクール)についての最新の理論を学ぶとともに、現在の勤務校等を題材とした学校間連携・地域連携の計画立案に関する双方向的な演習に取り組むことで、実践的な力量を構築する。</p>																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学校間連携・校種間連携等に関する実践的知識について深い理解を有する。																				
目標2	地域資源を活用して開かれた学校づくりを進めるための実践的知識について深い理解を有する。																				
目標3	学校参加と学校運営協議会制度(コミュニティースクール)に関する実践的知識について深い理解を有する。																				
目標4	学校間連携・地域連携の計画立案に関し現在の勤務校等を題材として現状の課題を発見する。																				
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																					
2 連携とは何か(1) 学校間連携・地域連携の現状と大分県の課題																					
3 連携とは何か(2) 制度に規定される連携と連携, 学校参加の理論																					
4 連携とは何か(3) 連携推進の考え方と実践 校長の経験から																					
5 地域連携(1) 地域連携と教育課程																					
6 地域連携(2) 学校運営協議会の役割と機能																					
7 地域連携(3) 馳プランを考える																					
8 地域連携(4) 玖珠町立玖珠中学校の実践																					
9 地域連携(5) 振り返り																					
10 学校間・校種間連携(1) 幼・小連携																					
11 学校間・校種間連携(2) 小・中連携																					
12 学校間・校種間連携(3) 特別支援学校との連携																					
13 学校間・校種間連携(4) フィールドワーク																					
14 学校間・校種間連携(5) 振り返り																					
15 全体を通じた学習成果の発表と総括																					
ラーニング	A:知識の定着・確認					ミニッツペーパー, 話し合い, ケースメソッド					工夫	その他の									
タイム	B:意見の表現・交換																				
ニティ	C:応用志向																				
グ	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備	事前課題に対するレポート作成(1h)																			
	事後																				
教科書	特になし。授業中に指示する。																				
参考書	日本教育経営学会実践推進委員会編『次世代スクールリーダーのための「校長の専門職基準」』花書院, 2016年。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度, 課題に取り組む姿勢, 討論への参加など)	60%																			
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	40%																			
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教を請うこと。																				
備考																					
リンク	URL																				